

2. 平成22年産大豆入札取引の運営に関する特記事項

(1) 入札取引に関する規定等

平成22年産大豆入札取引の運営に関して、業務規程等の変更は、行わなかった。

事務処理方法等に関して、買い手登録者遵守事項を以下のとおり改正し、買い手登録者に周知した。

大豆入札取引に係る買い手登録者遵守事項の改正

平成22年8月

本規定は、協会が行う国産大豆の入札取引に関し、「大豆の入札取引に係る業務規程」(以下「業務規程」という。)及び協会理事長が定める事項のうち、買い手に周知し、遵守を求める事項を示すものである。

平成22年産に係る登録者の申請を受け付けるに当たって、その一部を改正し、申請者に示すこととする。

改正事項は、次のとおりである。

1. 入札取引予定期日の通知の通知方法の変更

従来：登録者に対し、文書を郵送

改正案：ファクシミリによる送信

理由：経費節減

2. 無効札の取扱い

(1) 同一銘柄複数ロットに該当する複数のロットに同一価格を入札すべきところ、異なる価格を入札した場合

規程で無効札となるが、当該入札価格のうちの最高価格を以て入札したものと見なしてシステムに入力することとする。

理由：買い手(入札者)の錯誤により、無効札となるケースが解消しないことから、2以上の価格のうち、最も高い価格を以て入札したと見なして、処理することにより、無効札発生を回避する。

(2) 10円単位の価格を入札すべきところ、下1桁が0でない入札価格の場合10円未満を切り捨てた価格を以て入札価格と見なしてシステムに入力することとする。

理由：買い手(入札者)の錯誤により、無効札となるケースが解消しないことから、10円未満を切り捨てた価格を以て入札価格と見なして処理することにより、無効札発生を回避する。

なお、上記のケースについては、現在準備を進めている、買い手がインターネットを通じてパソコンの画面上で入札を行うシステムを導入する場合は、操作過程でエラーが表示されて、入札者が自ら修正入力することになる。

(2) 年産入札取引開始の準備

平成22年8月

協会ホームページにおいて平成22年産大豆入札取引登録に関する以下の案内を行った。

新規売り手登録申請受付案内

新規買い手登録申請受付案内

平成21年産売り手登録者及び買い手登録者に対し、平成22年産取引のための登録手続きについて、文書で案内した。

(3) 年産入札取引運営方針

平成22年11月1日開催の入札取引委員会において以下の運営方針を申し合わせた。

① 月別入札取引回数の予定

月2回実施を基本とし、必要に応じて調整する。

② 落札大豆の受渡期限

入札日から60日以内（前年産と同じ）

③ 入札取引結果の公表

各月の次の集計値を資料に取りまとめ、各月月末（休日等の関係で日程は適宜調整する。）に登録者に配付・公表する。

(ア) 普通大豆・特定加工用大豆別産地品種銘柄等・粒別上場数量、落札数量、落札価格

(イ) 平均落札価格（普通大豆・特定加工用大豆加重平均値）

配付・公表の方法：登録者に郵送、インターネットの協会サイトに掲出、農林水産省内記者クラブ等に配布

(4) 取引監視

年産の取引開始時点の平成22年12月1日に取引監視委員会全体委員会を開催し、監視の方針について審議した。

また、入札取引実施回ごとに3名の委員が立ち会い、不正がないことを確認した。

取引終了後の平成23年9月26日に取引監視委員会全体委員会を開催し、監視経過について審議した。

買い手登録者遵守事項の改正により、無効札の抑制を図ったこともあり、全開催回を通して無効札はなかった。新たな規定により無効札が回避された例が3件あった。

(5) 入札システムの改修

入札システムのコンピュータ設備の更新（平成23年4月）に合わせて、入札システムの変更、改良を行った。新システムは、平成23年産大豆入札取引において運用を開始することとした。変更事項は、以下のとおりである。

① OS（オペレーションシステム）の変更

従来、Windows2000 及び WindowsServer2003 を利用してきたが、マイクロソフト社のサポートが終了するため、Windows7 及び Windows Server

2008R2 を利用することとした。

② ファクシミリ送信システムの変更

従来、買い手に対する入札ロット明細書、入札票の配付、取引参加者に対する落札結果通知書の送付をファックスサーバーのファックス送信機能を使用して行ってきたが、入札ロット明細書、入札票の配付については電子メール或いは協会のインターネットサイト（登録者限定サイト）を利用する買い手が増えたこともあり、経費の少ないPCファックスによる送信システムに変更した。

③ ウェブ入札システムの導入

買い手が入札する際に入札票をファクシミリで送信する方法に加えて、買い手がインターネットに接続したパソコンから協会が開設するインターネット上の入札取引サイトにアクセスし、入札を行うことができるウェブ入札システムを開発するとともに、その運用に必要な設備を導入した。

（６）入札取引データの活用

入札取引に係わる情報処理は、コンピュータシステムとして「大豆入札システム」で処理してきたが、入札回毎の上場内容、買い手入札、落札結果に関するデータをシステムから取り出し、Microsoft Access を利用してパソコンに二次的データベースを構築し、必要に応じて蓄積されたデータを取り出し、表計算ソフトを利用して整理・集計できるようにした。

これにより、システムから出力できる定型的集計結果だけでなく、任意に期間、銘柄を指定して落札結果を集計したり、買い手の入札傾向を把握することが可能となった。